

松山を

市民のもとへ。

GO!

木下 ぎのした ぎん



市民のもとへ取り戻す、4つのとりくみ

- 01 城山の土砂崩れから、市民の信頼を回復
▶命を第一に、スピード感ある災害対応。いまできていない常識を。
- 02 松山アリーナ計画の必要性を問い直す
▶市民の声に耳をかたむけ、予算はいまある暮らしに優先すべき。
- 03 県と市の対話により、市民の利益を最大化
▶松山市民はみんな愛媛県民。対立のツケを市民に回さない。
- 04 消費税分の還元策で、暮らしに寄り添う
▶割引券の配布で消費を応援し、市民に還元。経済を活性化しよう。

スマートフォンで読み取って、
このチラシの内容を、
動画でご覧ください。



5分で想いを語りました。



伊予弁版もあるけん。

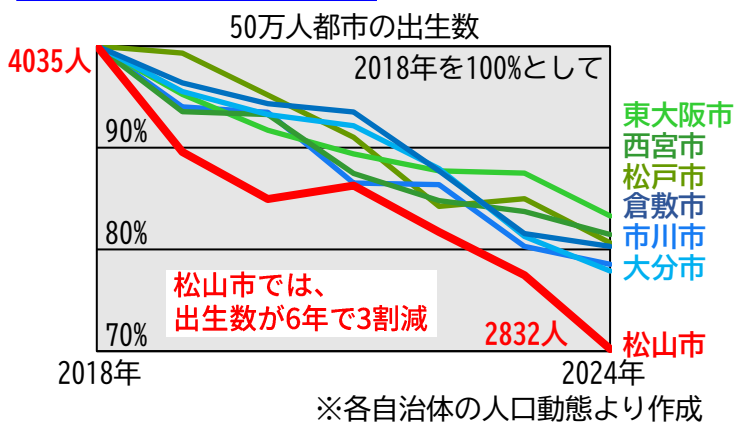


木下ごうの自己紹介

1982年松山市生まれの43歳です。余土小・南第二中・新居浜高専を卒業しました。電力会社に20年以上勤務し、インフラ整備や災害対応を通じて、現場を支えました。松山で暮らす一人として、松山を市民のもとへ取り戻すため、政治の道へ歩みます。3児の父(長男が小児がん)であり、「子どもや命を守りたい」と考えています。

政治経験がないからこそ、これまで市政に届かなかった声を大切にします。

いま、松山で起きていること



市長公約「少子化対策と子育て環境の充実」に、毎年約100億円が使われている状況について、現在の松山市の問題を共有します。

以前から少子化は全国的な問題ですが、出生数の変化を同規模の市と比べると、松山市では、この6年間で30%も減っています。これが、政策の結果です。

たった6年間で、子どもが3割も減ってゆく
このままでいいとは思いません。

松山を変えていく4つのとりくみ

01 城山の土砂崩れ対応

東南海地震に備えて、命を守る政治が必要です。私は、阪神・淡路大震災で姉を失いました。ひとごとではありません。災害が起きた時こそ、政治の役割が問われます。城山の土砂崩れについても、スピード感ある対応を、逃げずにやるべきです。

02 松山アリーナは中止

松山市内には観客2千人以上の文化・スポーツ施設が、すでに11か所もあります。何百億円もかかる新アリーナは不要です。トイレなどの改修により、いまある施設を大切に使うことが、いまを生きる人達を大切にすることにつながると信じています。

03 県と市の連携強化

松山市民は、愛媛県民であり、日本国民です。市には県や国との対話が必要です。対立すれば、そのツケは市民に回ります。県や国や他の自治体と連携するため、国でいう外務省のような専門部署を市に作り、市民の利益を最大化すべきと考えます。

04 消費税分の還元

国政で、消費税減税を訴える政党に投票しても、消費税は下がらず、物価高も止まりません。国がやらないのなら、市の政策で、買い物に使える割引券の配布など、消費税分の還元を、ねん出した予算内でおこない、生活を支えていきましょう。

市民の暮らしを守ること。それが、安心して子どもを産み育てられる一番の方法です。

一緒に松山を変えましょう。(ボランティア募集)

いち市民として、これまで会社で働いてきましたが、松山を変えたいと決意し、昨年、会社を退職しました。不安の多い時代だからこそ、痛みを知る私に、できることがあります。知名度も、組織の後ろ盾ありませんが、まっすぐにやっていきます。ご家族ご友人と、政治に目を向けていただきたいと思います。まずはLINE登録して、ご意見をください。一緒に松山を変えましょう。

木下ごう
LINE
連絡先



GO!